

ものづくりリレー 2022

糸と組織で織り成す市松模様

実習先企業様

葛利毛織工業株式会社

高級紳士服地メーカー

ジョンヘル織機で決して妥協のないものづくり

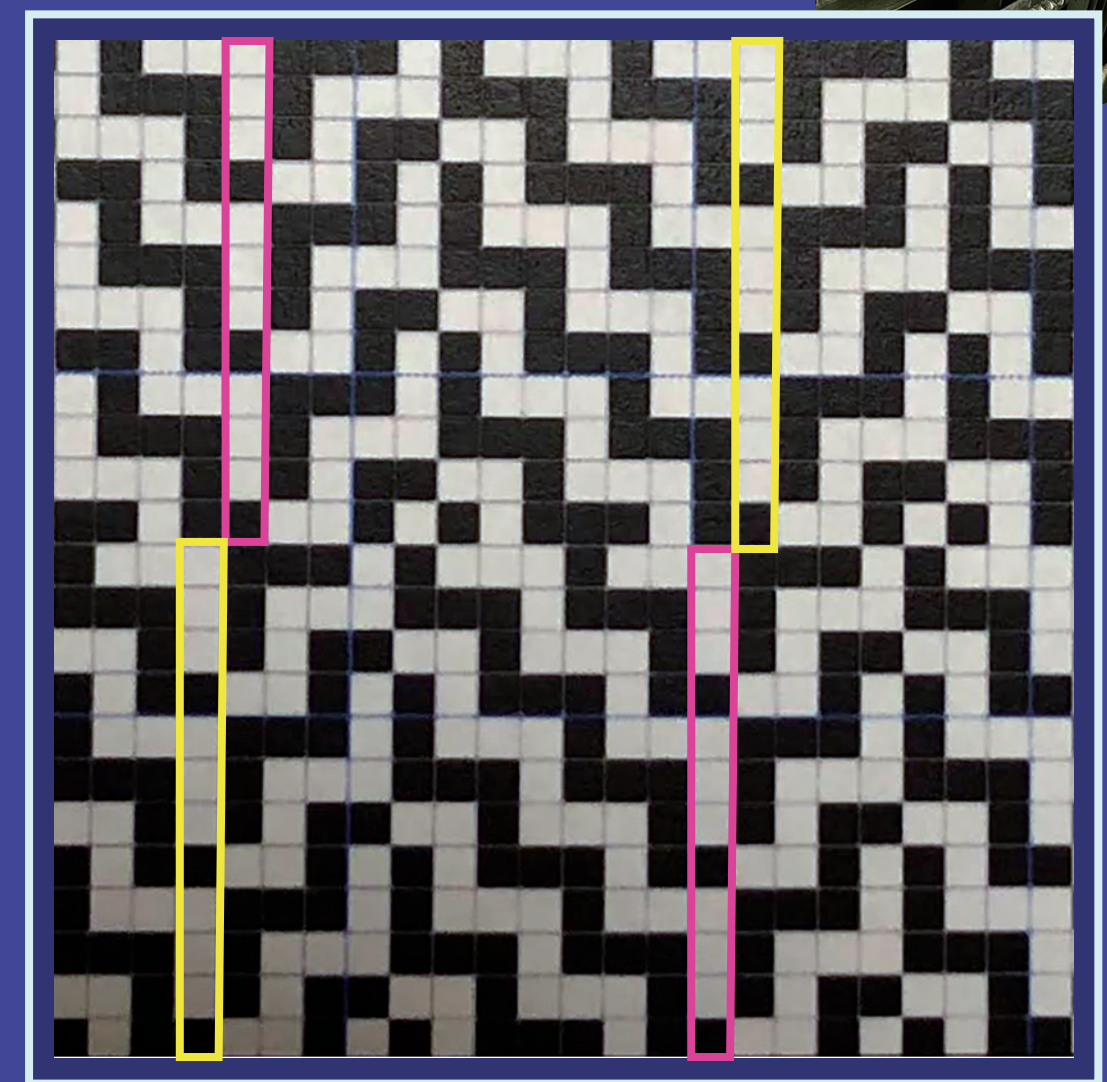
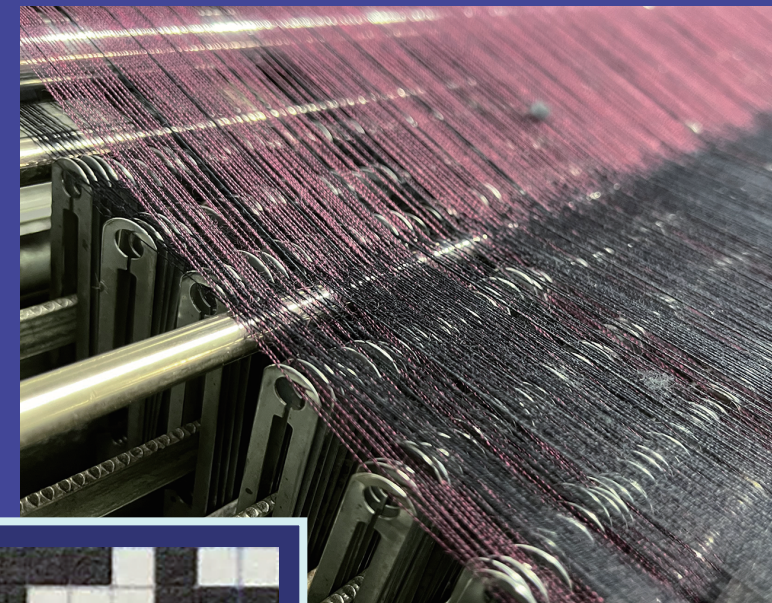


制作生地

素材 W100%

二重綾組織

綾織の応用組織で、経糸が長くわたる列が表に出て、短くわたる列が裏に引き込まれる仕組みになっている。糸を交互に配色し、組織を上下左右で入れ替えることによって市松模様をつくっている。



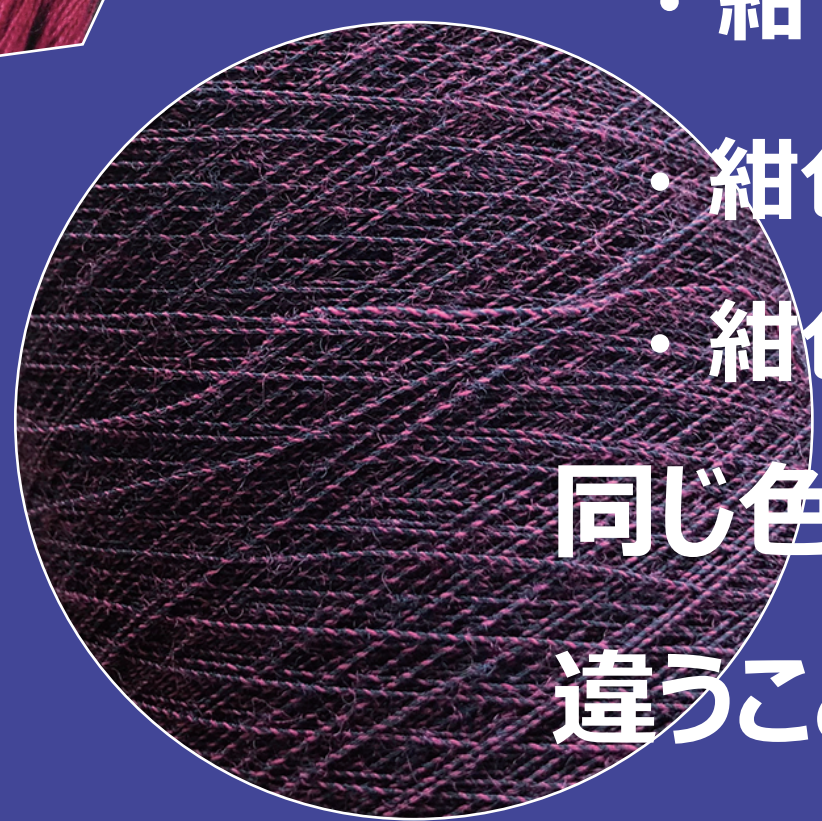
糸のこだわり

同一の紺色で染めた3種類の糸の組み合わせで製作。

- ・紺色双糸の地糸
- ・紺色双糸にマゼンタの単糸を撚り合わせた空糸
- ・紺色の地糸を2本撚り合わせたコード糸

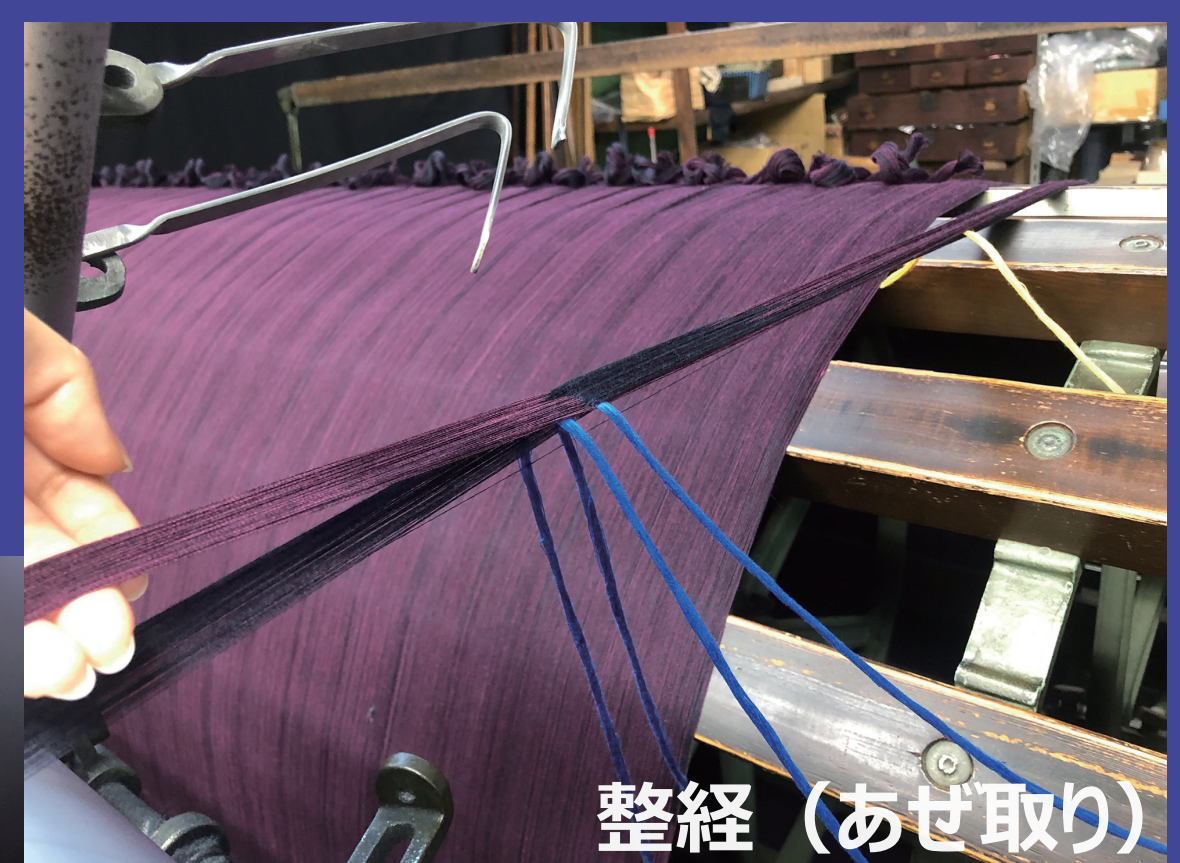
同じ色で染めてあっても糸の番手や糸の撚り方向・撚り回数が違うことによってテキスタイルになったとき見た目に大きな変化を与えることができる。

織組織を指示するカードを
手作業で組み立て



実習を通してテキスタイルの奥深さを知ることができました。実際に1つの布を作り上げようとすると、設計の段階から織りあがるまで考えなければならないことが沢山ありました。設計では、織る時の幅と出来上がりに必要な生地幅を考慮して打ち込みの糸数を計算するだけでなく、出来上がりの風合いを考慮して計算上だけで想像しなければなりませんでした。糸の選定や組織の違い、設計書の小さな書き違いでも大きなずれにつながってしまうことも知ることができました。また手の使い方やものの配置など、効率よく作業するための工夫を教えて頂き、実際に働く方々の職人技を見て感動し圧倒されました。

さらに商談に立ち会わせて頂いたり、依頼を受けたサンプルの裁断や梱包のお手伝いもさせて頂いたりして、出来上がったテキスタイルがどのようにして人に渡って評価されていくのかというところまで見る事ができ、研修全体を通して、テキスタイルの真の面白さを知ることができました。



整経（あせ取り）



経糸の巻取り工程